

西 朝ぼらけ



発行者
関西福中・福高同窓会
大住旦生(高8回)
京都府京田辺市
松井が丘1-24-11
Tel&Fax0774-63-4473

関西福中・福高
同窓会事務局
大阪府豊中市東泉丘
3-4 D-811
松岡幹郎(高6回)
Tel&Fax06-6846-4173

日本よ蘇れ!



会長 合屋 嘉人(中20)

明治以来今日迄日本歴史の大事事件は次の三つであらう。

- 一、明治維新→世界三大強国
- 二、敗戦後の復興→GNP世界第二位
- 三、バブル崩壊→蘇る日本?

▼明治維新に於いて従来の幕藩体制を完全に否定し、廃藩置県という大改革を成し遂げた。近代産業の育成に取り組み、短期間に国力を回復した。日清、日露の大戦争に勝利をおさめ世界の三大強国になった。

GNP世界第二位の地位を占めた。しかし、世界にむかって自己を主張する胆力も気概もなく、ただオドオドして周囲を見回しながら、金で済むならと商人根性丸出しの墮落国家に成り下がった。アメリカの大学教授が「Full stomach, empty soul」(胃袋満腹、魂カラッポ)と揶揄した。

▼一九九三年バブルがはじけ、株・土地をはじめあらゆる物が暴落し、底なしの不況に突入した。失われた十年のはじまりである。

歴代の内閣は不況対策に公共事業一点ばりの金のバラ撒きに終始したが景気は一向に回復せず国の債務は七百兆円を越えた。

☆日本の将来を

決する構造改革

こんな状況の中、二〇

〇二年「構造改革なくして景気回復なし」のキャッチフレーズで小泉首相が登場した。首相は二十七年來の持論であり改革の本丸と位置付ける郵政民営化法案の成立に執念を燃やした。これまで、郵貯・簡保から資金が建設業界にまわり、そこから族議員に又官僚の天下り先企業に流れている。民営化はこの流れを阻止する、即ち糧道を断つこと

によって二百以上と言われる特殊法人、認可法人の自然減を狙ったものである。同時に族議員を日干しにして、派閥を無力化させるという二重の大改革につながる。

郵政民営化を争点にした選挙に大勝してから小泉首相の多岐に亘る改革は一気に進みはじめた。憲法改正に必要な国民投票法案や教育基本法の改正、その他年金・医療・

地方分権等法案は目白押しだが、任期の九月迄に一気に具体化して次の内閣で実現することを期待する。そうなれば正しく戦後最大の改革になる。一方景気も不良債権の処理の進行と共に回復し始め、首相の構造改革と相乗効果をもたらして戦後最長の好景気を持続することは確実と言われている。

☆精神の復活

日本の復興に経済回復よりはるかに重要なことは精神の復活であることは申すまでもない。

歴史上日本は数度の困難に遭遇している。第一は元寇、第二はペリーの来航、第三は敗戦である。うが、幸い、武士道の精神が健全であったので乗り切ることができた。しかし、現在の精神の崩壊は歴史上最悪の深刻な困難と指摘する識者は多い。

殆ど毎日のように報道される身の毛もよだつ陰湿な殺人事件、政治家、官民を問わず頻発する不祥事に慄然たる思いを

る人は多いであろう。ただ救いは京大中西輝政教授によると精神的頹廢のあとには必ず精神の復興を目指す劇的な変化が起るの日本歴史の特徴であるというのである。確かにそのような動きの徴候はあるように思われる。

多くの本がベストセラーとして国民に読まれている。これ等は精神的復活の徴候とみることができるとはならないか。

日本人の情緒と武士道にある。この理解がすめば、世界一の歴史と共にハンチントンが言う「世界文明の中で独立したユニークな文明」と位置づけた日本文明に誇りを感じ、このような素晴らしい歴史・文明をつくってくれた祖先に感謝の念が湧く。そうすれば日本人の精神の復活は早まる筈である。

一つ目は、自主外交である。麻生外務大臣は韓国の大統領が「靖国問題が解決しなければ訪日しない」と言ったのに「止む得ません、結構です」と言ったとか、また安倍官房長官は上海領事館員の自殺問題に重ねて中国に抗議している。更にガスタ田の一方的採掘や尖閣諸島について厳しく反論していくだろう。日本政府が気概を以って自主外交を展開していけば自ずと国民の心に国家意識が強くなるのは自然の成り行きだろう。当然愛国心が芽生えてくる。

二つ目は、映画「ラストサムライ」や「男たちの大和」の大ヒット、又昨年のNHK大河ドラマ新撰組も武士道の復活に花を添えた。

三つ目は、日本歴史の優位性、誇るべき文化的な史実を力説する本が多数出版されていること、西尾幹二氏の「国民の歴史」、中西教授の「国民の文明史」、日本の没落か再生かを国民に問う数

四つ目は、小泉首相の構造改革である。この改革は中西教授の言う「劇的な変化」と評価される時が来るかもしれない。

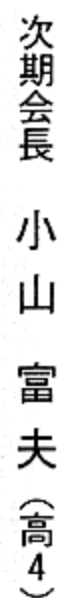
戦国時代以来江戸、明治、大正、昭和初期に日本に滞在し、または旅行した西洋人のすべてが日本文化の質の高さに驚き、悠久の自然と偉い人生の対比から生じた「もののあわれ」に代表される日本人の情緒の素晴らしさ、武士道に裏打ちされた倫理観の確かさに賛嘆の声をあげている。中でもアインシュタイン博士と大正末期から昭和にかけて日本駐在のフランス大使ポール・クロードルの賛辞は出色である。アインシュタインは「世界に最も古く万世一系の天皇を持つ日本という尊い国をつくってくれた神に感謝する」と言い、クロードルは「もし世界に唯一残したい民族があるとすればそれは日本民族だ」と言う。

このような賛辞が日本文化の何に由来するか日本人自身が学びとること重要である。それは言わずと知れた日本の歴史、

「おおい日本 何処へいくんだ 引き返せ」という川柳を昔読んで強く共感を憶えた記憶がある。今、漸くその息吹を感じている。

内外の多くの識者が日本人に武士道の素晴らしさとその復活を呼びかけている。今こそ日本人がこの声に目を醒ますべき時がきたと思う。特にエリートを自認するわが福中・福高生は先頭を切る覚悟を持って欲しいと願うものである。

「おおい日本 何処へいくんだ 引き返せ」という川柳を昔読んで強く共感を憶えた記憶がある。今、漸くその息吹を感じている。



五十九年五月十七日大阪湾に浮かぶサンフラワー号の船上で産声を上げて以来、初代大隈会長、二代故江崎会長、三代三笠会長、四代合屋会長のご

合屋会長の時代、副会長の一人として勤めさせていたときでした。合屋先輩の高潔なご人格とまた果敢な行動力を身近に学ばせていただくことができ、大変幸せでありますと同時に尊敬申し上げます。私淑をさせていただきます。

愛着が強く毎年六月、本部で開催される学年別出席者数では卒業還暦年次及び当番担当年次の方々を除き未だにチャンピオンを誇っています。

二月には関西福岡県人会の会長もなされている合屋前会長の意頭取りで、関西・京都両県人会合同の『戦後60年記念作品』『男たちの大和』原寸大セツト見学バスツアー」が開催されました。好天気にも恵まれ七十名の参加者のもと盛大に開催されました。

「戦艦大和」に関する戦記として吉田満氏著書「戦艦大和ノ最後」があ

す。当時、幾多の若人が惜しい命を落として行かれたわけですが、死に際し「どうして若くて死ななければならぬのか」と言う疑問に対する答えが出てくるように思いますので末筆ですが、記させていただきます。

進歩の無い者は決して勝たない。
負けて目覚めることが最上の道だ。
日本は進歩と言うことを軽んじすぎた。
私的な潔癖や徳義にこだわって、真の進歩を忘れていた。
敗れて目覚める。

われるか。
俺たちはその先導にな
るのだ。
日本の新生にさがけ
て散る。
まさに本望じゃないか。
今年も梅から桜のシー
ズンになってきました。
このように命を掛けて散
って逝った若人の訓を大
切にして行きたいと思っ
ています。
結びとしまして、ここ
まで築き上げられました
諸先輩の関西福中・福高
同窓会の伝統とご功績を
堅持しつつ、改良を加え
少しでも進歩ができます
よう努めたいと思います。
ご支援のほど宜しくお願

特に同窓会の役員会、幹事会、総会とどの集まりでも必ず三十分以前に

卒業年次は高校四回生で在学期間は六年間と長かったためか、同窓会に

りますが、この中で実在の臼淵大尉の特攻に対する死生観が記されています。

それ以外にどうして日本は救われるか
今日覚めずして何時救

い申し上げます。

hs/

母校に思う！

次期副会長 杉原 行幸 (高5)



同窓会の アイデンティティ に立つ

昨年は米国ミネアポリス市、アフリカ七カ国に五十二日間滞在しました。世界で最も富める国と最も貧しい国々です。そこで感じたのは富める国の人々も貧しい国の人々も等しく自国に誇りを持ち明るく暮らしていることでした。

アフリカの人々は持つて生れた天性なのか、貧困にもかかわらず、とても明るいのはポジティブ・サプライズでした。

ミネアポリスは寒冷な気候の関係から北欧やドイツからの移民を先祖に持つ人が多く、スウェーデンの博物館もあってルーツの文化を大切にしています。アメリカインディア

ンの博物館にも行きましたが、民芸品を売って資金を貯め、州政府から借りていた建物を買収することができたと誇らしげにその文化を語る目は輝いていました。

また、ミネアポリスには今年立派な茶室が建てられる予定で、茶の湯や書道を楽しんでいる人が多いのにも驚きました。大人気の寿司もスシパーは高いので自分で握ることを教える学校があり、私の知人(男性)も通っています。グローバル化による文化の均一化が危ぶまれています。やはり自国の文化を大切に、同時に他国の文化にも敬意を表してそれを学ぼうとする人々が多数を占めているのです。

同窓会活動は、同郷の文化を共有し、多様な青春時代を固有の校風を持つ母校で過ごした者の集まりである...という一点で存在価値があり、心が和み安らぐ組織です。

わが福中・福高は黒田藩の藩校であった修猷館

に対し、町人の街博多に設立され、両校が独自の校風のもと、切磋琢磨することによって発展してきました。昭和四十六年に西日本新聞から発刊された「福中春夏」を読めば良くわかります。

毎年六月に行われる関西福中・福高会と近畿修猷

会のゴルフ対抗戦も今年で七回目を迎えます。勝者は高らかに校歌を斉唱し敗者は頭を垂れてこれを聞く恒例行事は、強烈に母校愛を感じさせる場でもあります。

これに加えて、三年前からは両校に佐賀西、鹿島も加えた四校対抗ゴルフも行われ、修猷とは囲碁の定期戦も始まりました。このように母校の文化を懐かしみ、卒業生としてもこれを発展させるように力を尽くすと共に、同郷の他校とも交流することは大変有意義です。

私はこのたび僭越ながら副会長として同窓会の

発展に微力を尽くす立場に推されましたので、上記の同窓会のアイデンティティに立って、会員の方々が心の故郷として楽しく集える会になるように努力したいと思っています。集うこと自体が、郷土文化を共有する機会となりませんが、更に色々な機会を

とらえて共有の文化を感じていただけることができたかと考えています。

「至誠・質実剛健・文武両道」というのは母校の伝統文化ですが、今回のラグビー部の二十数年振りの全国大会出場が良ききっかけになればと思います。

年、六年、七年にかけてバスケット、バレーボール、ラグビー、剣道と優勝が相次ぎ、七年、八年は旧制福高に五十人前後の最高合格率を示し、文武にわたり黄金時代を築いた。

火災後は再び修猷館の寄宿舎や放課後の校舎を借りて勉強したが、修猷館校友会主催で福中復興慈善音楽会が開催され、この友情と美事に新聞社が後援、福博劇場で昼夜六千人の聴衆を集める福博あげての催しとなり、真新しいランドピアノが福中に寄贈された。

草創期の先生と生徒が一体となった苦勞、奮起した火災、上潮に乗った昭和初期、戦争と戦後の混乱、どんなに大きな困難にも進むべき目標を失わなかったのが、誇るべき我が母校の特色である...と福中春夏には記されている。(昭和四十六年西日本新聞刊)

福中・福高の歩み

～修猷館との友情 先輩の支え～

(福中 春夏より)



福中の開校は大正六年四月六日で、校舎も校章も校旗もなかった。校舎は修猷館の講堂を借り、帽章は明善中のものをさしあたり借用、帽子の二本線は大線と細線を明善と逆さまにつけることにした。明善から転動してこられた初代の高宮校長が、帽子に白線と帽章がなくは中学生の気分が出ないだろうと考えられたの配慮だった。第一次大戦中の好景気で、福岡にもう一校をという声が起こり、二月に文部省の

認可、四月開校というスピード開校で、すべてが間に合わなかったのだ。当時福岡市には県立は修猷館一校、前年に私立の西南学院が開校、周辺に朝倉、明善、東筑、嘉穂の四校があった。のちに校長を務められ当時新入生だった長敬一郎先生は、「修猷に合格できない者が福中に行く」と言われなければならない絶対修猷館には負けたくない...と感想文に書いたそうです。

初代高宮校長はどんな学校づくりをめざしたのか。入学式での挨拶で高宮校長は「瓢箪のくくり」を説いた。大学、小学校はよしゆるやかにするとしても、中間の中学時代はしっかりと締めていかなければ人材の育成は困難である...と述べられた。規律は他校に比べて厳しく、至誠・質実剛健を掲げる校風の基礎を創ったが、当時の大正デモク

ラシーを反映してか、学寮運営は民主的で自由な雰囲気です。学寮という風だったそうである。

数々の優勝を収めた運動部が初めて優勝したのは、開校五年後の大正十一年の中学相撲大会、優勝を修猷館と争い、みごと栄冠を勝ち取った。何でもよい、ひとつだけでも修猷館に勝ってみろ、という高宮校長の口癖が実った瞬間であった。

創立十年すべてが軌道に乗っていた福中に昭和二年六月、一大災難が襲った。校舎のほとんどが火事で灰燼に帰してしまっ

た。呆然とする福中生に先輩たちの喝が入った。五日後には卒業生主催の慰問激励会が開かれ、九大生になっていた二回生の故郷島三郎九大教授などの卒業生の激励が福中名言として残っている。これに奮起して、この年柔道部が全国制覇、その後運動部は五



雪山から夏山まで 歩こう会

三浦 元 (高11)

この会では、春夏秋冬ほぼ毎月、関西の野山に繰り出しています。少ないメンバーでなぜこれだけ精力的に登れるのか。その秘密は福岡県人会の「よかとこ歩こう会」との、合同開催にあります。対象が、福岡県全域に広がったことにより、多才な人が集まり、交流の

上野の野鳥が存在し、約一割が水辺の鳥であるが、日本産鳥は約五百五十種でその半分以上が水辺の鳥となっているのが特徴である。

探鳥の会
バードウォッチングを
しませんか!!
松岡 幹郎 (高6)



バードウォッチングで一番人気のある鳥は飛ぶ宝石とも呼ばれる、背がコバルト色に輝くカワセミである。一時は農薬や化学洗剤の使用で川が汚れ、個体数が減少していたが、一時期に比べ川もキレイになるにつれて増えてきている。夏鳥で人気があるのは三鳴鳥のひとつで、さえずりが素晴らしく、背中がルリ色したオオルリ。黄、橙、黒、白色で彩りがキレイなキビタキ。目と嘴がコバルト色で、尾がながく特徴あるさえずりをするサンコウチョウ等。越冬にやってくる冬鳥では、赤い鳥(ベニマシコ、オ

オマシコ、イスカ等)や背中がルリ色のルリビタキが人気です。ちょっとバードウォッチングに慣れてくるとヤマセミやアカシヨウビン、ヤマガシラ等との出会いを熱望するようになる。

肉眼だと分からないが、双眼鏡や望遠鏡(フィールドスコープ)で観察すると、最近公園などで結構見かけられるようになったシジュウガラなども、非常に美しく、天然の造形美の見事に驚かされる。地球上で一番美しい生物は鳥類という人もいます。視力は人間の七、八倍あるようで、熱帯雨林の鳥が色彩的にも

観察。夏 8月中旬～9月中旬 シギ、チドリが越冬のために南へ向う途中に干潟へ立ち寄るのでこれを観察。秋 9月中旬～10月中旬 タカの渡りを観察。美しい野鳥に劇的な出会いをすると、バードウォッチングはやめられなくなるようだ。ほどよく歩いて、清らかな空気を吸い、森林浴をし、また鳥見仲間と出会う。オシャベリをしているとストレスの解消にもなり健康的である。一緒にバードウォッチングをしませんか。

輪が広がりました。出身校だけでも、十指を越えます。修猷館、大濠、筑紫丘、城南、西南女、筑紫女、明善、久留米商、嘉穂、豊前、東筑、八幡、築上中部などなど。四十五歳から七十五歳の方まで、足は多少おぼつかなくとも、口(おしゃべり、アルコール)は達者な猛者ぞろいです。

分担の鍋料理 福高主催、福高メンバー(写真) 真

イ、山頂近くで自然の湧水あり) 八十二月 神戸麻耶山(下山後、三宮で忘年会。山行ナシの宴会直前の人多し) 数) ところで、中高年登山ということで、十七年より対策を講じました。それはケガに備えてリクレーション保険に加入したことです。福高が幹事として毎回参加者から百円の保険料を徴収しています。十八年も順調に進行しています。直近の福高主

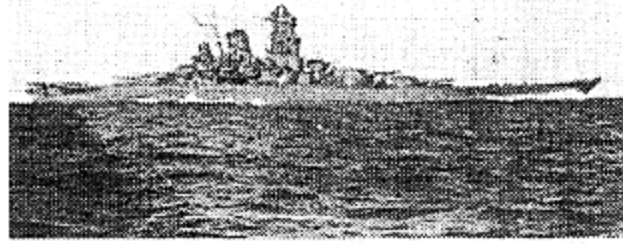
催は、六月十一日のバーベキューです。場所は、北摂の雄峰、剣尾山(七八四米)の麓の一里松キャンプ場です。設備は完備している、有志で肉、魚、野菜を分担して持参します。この前からフグのヒレ酒を上手につくる人が参加し始めて好評を博し、焼肉派もたじたじの様子です。とにかく、楽しかヨカ集まりです。博多弁丸出しで、なあんも恥ずかしゅうなかとです。

旅行記

男たちの大和

松浦 昭男(高5)

話題の映画、辺見じゅん原作の「男たちの大和」の制作に当たり尾道市に建設された不沈戦艦「大和」の原寸大ロケセットを見学に行こうと、京都と関西の県人会合同のバスツアーが企画されました。



試験航行中の大和

ツアー参加にあたり、まずは映画鑑賞から...と、何年ぶりか映画館へ。東シナ海に沈む朽ち果てた船体の映像が映し出され、長淵剛のテーマソングにのって「水上特攻」大和の遺族が沈没現場を訪れ想いを馳せると、この回想形式が始まりました。

昭和二十年四月、敗戦の色濃い時期、若者の清純な愛、肉親の絆などを描きながら、特攻の命

のもと、召集間もない十代、二十代の若者が大半の三千人余の乗組員と共に沖繩沖の海底の藻屑と消えた戦艦大和をめぐる壮絶な人間ドラマの傑作で、万感胸に迫り涙が絶えませんでした。

バスツアー当日は前日の雨が嘘のような好天に恵まれ、参加者数も七十名とバス二台の盛況。わが同窓会は合会長以下八名が参加、山陽道を一路西へ。車内ではほろ酔い気分が盛り上がり、ガイド嬢の案内も控え目。約四時間で目的の尾道日立造船島に到着。



土曜日とあって会場は見学者であふれ、文学の町尾道も映画の町と化したようでした。

追記

今回は日帰りという

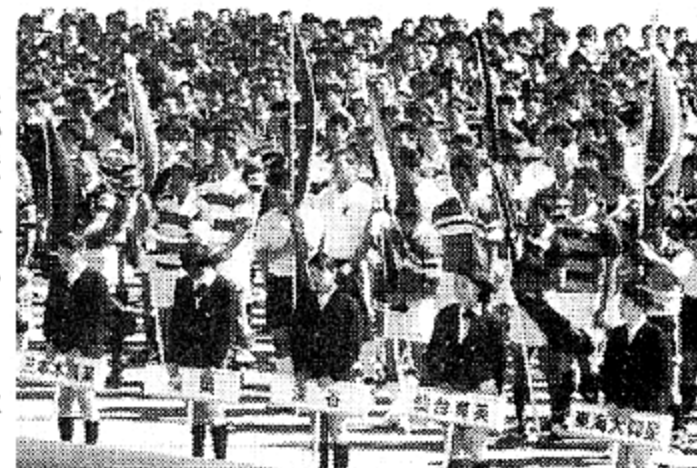
撮影に要した部分百九十メートル、本物は二百六十三メートルとか。三千余人が生活を共にした舞台を、映画を思い出しながら体感しました。

ことでコースには含まれませんでした。島県市には昨年4月に海軍歴史資料館「大和ミュージアム」が開

第7回高校選抜ラグビー大会で母校健闘！

一 応援観戦記

井上 啓子(高22)



ズ(全長26メートル)の戦艦大和の模型や、本物の零戦、人間魚雷「回天」などの展示に、こちらの方も大盛況と。一度見学したいものです。

同期で母校のラグビー部監督をしている森重隆君から「二十四年振りに、四月三日から九日まで開催の全国大会に出場するけん、応援に来ちゃりやい」との連絡が入ったのは三月上旬のことでした。

同期で母校のラグビー部監督をしている森重隆君から「二十四年振りに、四月三日から九日まで開催の全国大会に出場するけん、応援に来ちゃりやい」との連絡が入ったのは三月上旬のことでした。

翌日、私は日帰りのため応援はできませんでしたが、敗者戦で東北第三位の三本木農業高校と対戦し、九十キログラムを超えFを相手に三十一対二十九で勝利したその対戦は、接戦で、かつ勝利し、大変おもしろい試合であった。と同級生が知らせてくれました。

我が同窓会も発足二十三年を迎え、名簿人員も千名を超えております。同好会も八つあり、それぞれ活発な活動をしており、年費の納入状況は、ひとりで、厳しい会運営をしております。

後半、風下のなかで強風に耐えて優勢に戦いました。どちらも点が入らず、このまま押し切るかと思つた終了間際に、アレレという感じでトライされ、結局八対十で負けました。なかなかの好ゲームでした。

八全国高校選抜大会とは、全国から選ばれた二十四校がトーナメント方式で頂点をめざす大会。全国を九つに分けたブロック別の代表校(二、四校)、開催県校(一校)、前年度優勝ブロック校(一校)、チャレンジ校(二校)から選ばれる。チャレンジ校は第五回大会から導入。予選敗退チームのなかから話題性などを考慮し、東西一チームずつ選ばれ、福高はこの枠に選ばれた。

WFでスクラムを組んだらほとんど押され放し。スクラム後のボールは深谷高校がパスを回している。しかし福高のタックルが素晴らしかった。こことく相手のパスを潰し、相手に思うような試合展開をさせない。前半十五分に待望のトライ。

校は大変な騒ぎで、藤校長以下急遽応援団が編成されたとのこと。今回の試合を見て、母校のラグビー部が実力をつけてきているのを肌で感じました。

年会費納入のお願い

一人でも多くの方のご協力をお願いします。